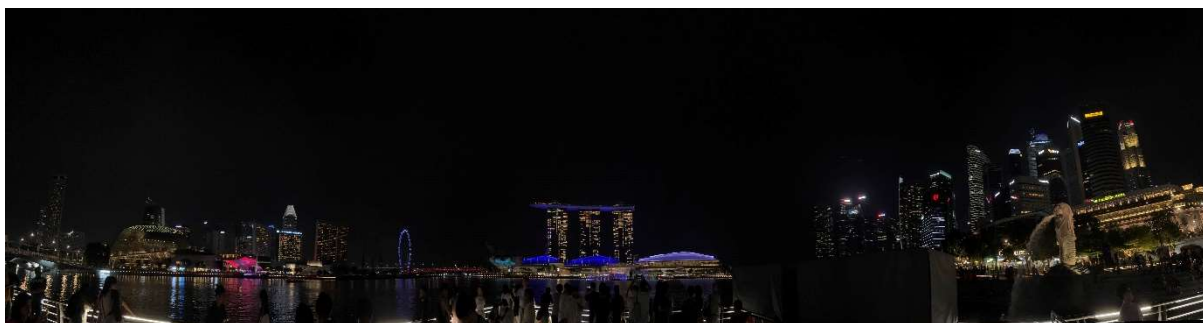




## Team B: **B**etters

9日間の旅は、信じられないほど濃いものだった。Bチームはシンガポールでの研修を通じて、調査だけでなく、現地の文化や生活も肌で感じることができた。

印象に残った場所はいくつもある。USSでは、絶叫マシンが苦手な先輩を無理やり乗せてしまい、好感度が一気に下がったのは忘れられないエピソードだ。フィールドワークでは、多くの住民が快くインタビューに応じてくれて、現地の生活習慣について知ることができた。

現地学生との交流も心に残っている。Ngee Ann Polytechnicの学生はとても陽気で、「Hey bro!」と声をかけてくれたが、自分の英語力が足りず、会話を続けられなかった。気まずさもあったが、その経験が英語を上達させたいという気持ちを芽生えさせてくれた。

食文化にも驚きが多かった。シンガポールで食べたお米は日本の米とまったく違い、まるでインドカレー屋で出てくるような長粒米の風味だった。飲み物も独特で、ピンク色の **Bandung** は一口飲んで「これ、飲み切れるかな」と思うほど強烈だった。さらに、あるお店ではニーアンの学生たちが「これは本物のチキンライスではない」と言って、わざわざ別の店で買い直してくれたことも印象深い。他にも、チャイナタウンのソフトクリーム屋さんでは1分ほどのテーマソングが永遠にリピートされていて洗脳状態に陥りそうだった。

街の風景や生活スタイルにも新鮮な気づきがあった。信号は驚くほど早く変わり、車優先の文化を体感した。美術館でのライトショーや、夜のスタバでの語らいは良い思い出だ。うどん屋で天ぷらを食べ、日本の味にほっとした一方で、豆腐はとても食べられるものではなく、日本との違いを改めて実感した。

チーム内でも忘れられない場面が多かった。特にチームメンバーのケンティ氏が写真スポット

で突然はしゃぎ出し、皆を爆笑させたのは衝撃だった。こうした体験を通じて、シンガポールの印象は大きく変わった。観光地という表面的なイメージしか持っていなかったが、実際に住宅地やホーカーを歩き、人々の暮らしに触れたことで、この国の生活を知りました。今回の研修を超えて、自分の視野を広げる貴重な経験となりました。



